

「みずなみ CS 地域の学校」というタイトルで発行していく「コミュニティ・スクール」に関する情報誌です。「CS」は「コミュニティ・スクール」の頭文字です。「地域の学校」は、この制度の中核にある地域と学校が協働して児童生徒の育成を図ること、また地域の中にあり、地域に開かれ地域とともにある学校であることを願いタイトルとしました。

市内の各地域とその地域の学校が協働して取り組む様々な様子を紹介していきます。

地域と学校の協働活動の紹介

太鼓演奏を通して～釜戸小では～

3月14日釜戸町公民館で開催された「春の響奏」において、釜戸小学校3年生の児童が総合的な学習の時間ですすめてきた太鼓の演奏を披露しました。釜戸地域の太鼓サークル「青龍」のみなさんから指導を受け、その成果を発表しました。

感染症拡大の中、指導を受けたり、練習したりする時間が少なく演奏技能の習得をすることや全体であわせていくことが大変だったようです。

しかし、本番の演奏を拝聴すると、児童はそんなこともなかったように、迫力のある息のあった演奏を披露しました。

また、3年生の演奏とは別に、釜戸公民館活動として活動を進めてきた小学生を対象とした太鼓クラブの演奏、「青龍」の演奏も行われました。

晴天の中、太鼓の演奏を堪能できるひと時を過ごすことができました。



釜戸小3年生の太鼓演奏

地域の方々の支援をいただき小学校の児童が地域のことや地域の伝統・文化についてふれることができました。

「青龍」では、チームの衣装のデザインを瑞浪高等学校生活福祉科（令和3年度新入生より生活デザイン科としてスタート）

に依頼し、今回その試作品が会場で披露されました。コバルトブルーを基調とし、清楚な中に力強さを醸し出すデザインの衣装が



瑞浪高校生活福祉科
デザインの衣装

今回、地元の高校の特色を生かし連携することもできました。地域にとっても小学校にとっても、さらに高校にとってもよい機会となりました。

このような互いにメリットがある取組が「コミュニティ・スクール」のよさです。

学校運営協議会って？

学校評議員会と学校運営協議会とどう違うの？
学校評議員は校長の求めに応じて、学校運営に関して、委員個人として意見を述べることをしました。

学校運営協議会は、学校長の提示する学校運営について承認する権限があります。学校と地域の方が等しい立場で子供の教育を担っていく立場になります。

地域のニーズも学校教育に反映し、地域の方も教育の当事者としてかかわる制度です。

稲津小・釜戸小が今年度（令和3年度）より正式に「コミュニティ・スクール」としてスタートをしました。「コミュニティ・スクール」とは学校運営協議会を設置した学校のことです。地域の中の学校として、地域と学校がともに地域の子供を育てていく制度です。瑞浪市では、令和6年度までに順次市内全小中学校に学校運営協議会を設置し「コミュニティ・スクール」としていきます。

明世小では、5年生が総合の学習で地域の・繁殖に取り組んでみえます。

3月17日地域でホタルの飼育に堪能な奥村さんの指導を仰ぎホタルの幼虫を放流しました。同時に幼虫のえさになるカワニナも放流しました。

ホタルの飼育を通して、命について、環境について学ぶことができます。

奥村さんの指導のもと児童はホタルの生態、環境について大変深い学びをすることができました。

身近なところで、地域のよさについて学ぶことができました。